

2018 年 7 月 2 日

CVIT 会員 各位

日本心血管インターベンション治療学会
理事長 中村 正人
レジストリー学術小委員会 委員長 天野 哲也

2017 年度施設訪問によるデータ照合（Audit）についての報告

平素より日本心血管インターベンション治療学会（CVIT）の登録事業にご協力いただき誠にありがとうございます。

当学会では、会員の先生方から入力していただいておりますデータの質を担保するため、施設訪問によるデータ照合（Audit）を一昨年より実施しております。具体的にはランダムに選定した施設に担当者が赴き、入力データと診療記録との照合を行なっております。その目的は、以下の三点としております：

- ① システム上で改善できる点や入力を誤りやすいポイントなどを探索する
- ② 診療記録の照合を行い、入力されたデータの整合性を確認する
- ③ データを入力されている現場のご意見を直接お伺いする

CVIT 内の各データベースが会員の先生方、さらには社会全体から広く信頼されることに繋がるようこちらの作業を進めさせていただいております。なお、2017 年度に計 17 施設で実施された Audit 内容に関して、フィードバック（FB）の例を共有させていただきます。

- J-PCI への入力ミスがみられた施設に対する FB の例：かなりの入力漏れがありましたが、カテ終了後直ちに記載可能なレポートシステムの構築、あるいは電子カルテ自体の情報量を増やすことで対応することが可能と考えられます。このほか、J-PCI の入力項目の周知が必要と思われます。
- J-PCI へ入力された情報の齟齬がみられた施設に対する FB の例：原資料の正確さも必要ですが、J-PCI への入力者はそれらを総合的に判断出来るよう、一定水準の教育が本来必要です。こういった方面でのサポートは学会からも必要であると考えられます。
- 入力が良好であった施設への FB の例：入力内容としては少々の間違い、未入力症例があるものの、医師、コメディカル協力の下、入力はなされていると感じます。但し、狭窄度の評価に over estimate であるとの指摘が評価者より挙げられましたが、客観的な討論は困難です。

CVIT のデータベースは今後も 保険委員会と外科系学会社会保険委員会連合との折衝、学術委員会、専門医認定医制度審議会等で建設的に使用されていく予定です。

どうか皆様のご継続的なご理解とご協力のほどを何卒よろしくお願いいたします。

以上